

長年に渡る岩付城築城者論争に一石を投じる問題作!



玉隠と 岩付城築城者の謎

自耕齋詩軸并序を
読み解く

柴田昌彦
中世太田領研究会

岩付城は埼玉県岩槻に城址を残す戦国期の城である。元荒川を天然の水堀に利用した堅城であり、諸勢力境目の城として争奪戦の対象となった要所と名高く、戦国期に築城した有力者は誰だったのかは長年の歴史論争の種となっている。

当初は関東の英傑太田道灌にも連なる太田氏が築城者として有力とされた。しかし、新出史料『自耕齋詩軸并序』（以下『詩軸』）という漢詩文の登場により成田氏説が有力となり、また近年では渋江氏説も提起され、その論争の中、太田氏説は傍流へとなっていく。

本書の著者は、築城者論争の転換点となった『詩軸』とその筆者である禅僧玉隠に着目。太田氏築城者説を再構築するという観点で、『詩軸』を多角的観点をを用いて精読し、断片的に『詩軸』を捉えていた先行研究に対して、本書で一つ一つ反論を試みる。本書は他にも、様々な関東戦国史との整合性の検証、更に地理学観点からの補強も行い、多くの読者にその是非と今後の歴史論説の在り方を問う挑戦状でもある。

三百頁に及ぶ緻密な論説で
歴史の真相に迫る!



開山玉隠英瑠坐像
(秩父市萬松山円融寺所蔵)

『玉隠』
室町時代後期に関東禅院の権威建長寺の住持を務めた禅僧。古河公方・足利政氏、関東管領・山内上杉顯定、太田道灌ら関東戦国史の歴々の権力者達から詩の作成を依頼される「五山文学」の名手の一人。

『自耕齋詩軸并序』
玉隠による漢詩文。関東戦国時代の情景を古代中国の逸話をなぞらえた格調の高い漢詩文で描き、岩付城築城者である「自耕齋」という人物を称揚している。



多数の写真や図を収録

地域歴史
定価(本体 1800 円+税)
A5判・並製本・325頁
ISBN 978-4-89623-144-1

問合せ先

まつやま書房 〒355-0017 東松山市松葉町3-2-5
Tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460
<http://www.matsuyama-syobou.com/>

申込書

玉隠と

自耕齋詩軸并序を
読み解く

岩付城築城者の謎

柴田昌彦

ISBN 978-4-89623-128-1 定価(本体一八〇〇円+税)

注文数 冊
お名前
電話番号

書店名

まつやま書房 ☎ 0493-22-4162
Fax 0493-22-4460
〒355-0017 東松山市松葉町3-2-5